

チャペルコンサートのご案内
ソプラノと古楽器テオルボによる
バロック時代の教会音楽
また、聖書の話

11月27日(土)より
無料ネット配信

演 奏

佐藤裕希恵

ソプラノ

瀧井レオナルド

テオルボ（古楽器）

聖書の話

野村天路（当教会牧師）



教会の公式ホームページから視聴していただけます。

生田丘の上キリスト教会

<http://ikutaokanoue.com>



演奏者プロフィール

佐藤裕希恵 Yukie SATO (ソプラノ)

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院古楽科修士課程修了。2011年よりスイス、バーゼルのスコラ・カントルム修士課程で学び、更なる知見を深める。ポーランドや山梨での国際古楽コンクール優勝を始め数多く受賞。バロック・オペラのほか、ソリストとしてヘンデル『メサイア』、J.S. バッハ『ヨハネ受難曲』などに出演し、世界屈指の古楽演奏家、アンサンブルと数多く共演。国内外で高い評価を得る。現在桜美林大学非常勤講師。

瀧井レオナルド Leonardo TAKIY (テオルボ)

日系ブラジル人三世。バーゼル・スコラ・カントルムで名手ホプキンソン・スミス氏のもとリュートを学び、国内外でリサイタルを開催。つのだたかしや波多野睦美とのデュオで好評を博す他、R.ヤコブス、R.アレッサンドリーニ等著名な音楽家の監修／指揮するアンサンブルや国内の主要なオーケストラと多数共演。佐藤裕希恵とのデュオ《ヴォクス・ポエティカ》では独自の世界観を追求し、CD『テオルボと描く肖像』はレコード芸術特選盤に選出。

公式サイト www.voxpoetica-duo.com

テオルボとは 今回のコンサートで演奏する、バロック時代に愛されていた「テオルボ」という撥弦楽器をご紹介します。長いネックに張られた低音弦が特徴で、「リュート」の仲間の中でも特に大型の楽器です。大きいものでは2メートル近くになることも。リュートは“西洋の琵琶”と言えばイメージを掴みやすいでしょうか。起源はおそらくアラブの楽器「ウード」にあると云われ、洋梨を縦に割ったような丸いボディを持ちます。テオルボは特に17世紀のイタリア、フランスをはじめ、ヨーロッパ中で活躍しました。独奏曲から歌・楽器とのアンサンブルまで、レパートリーは様々。繊細なピアノッシモから力強いフォルティッシモ、やわらかい音色からエッジの効いた音色まで、弾き方次第でさまざまな表情を魅せることができます。バロック期のヨーロッパが生んだ木の器からどんな音色が紡ぎ出されるのか、どうぞお楽しみに。

「信仰を持つまでの経緯」 佐藤裕希恵

私はごく普通のサラリーマン家庭に生まれました。年始には近所の神社にお参りに行き、教会とは無縁の生活。そんな私が聖書に出会ったのは、ミュージカルがきっかけで歌を始め、音楽大学へ進学した時です。ハレルヤコーラスで有名なヘンデルの《メサイア》をはじめ、西洋音楽を学ぶ上で聖書の理解は不可欠でした。大学院で古楽（バロック時代以前の西洋音楽）を学ぶようになり、いよいよキリスト教音楽に向き合う機会が増えていきましたが、正直なところキリスト教についてはよく分からないことばかり。「図解聖書」のような入門書を読んで知識を蓄えようとしたのですが、今ひとつピンときていませんでした。そんな毎日に転機が訪れました。古楽専門の大学院で学ぶためスイスのバーゼルへ留学することになったのです。観光のつもりでヨーロッパのあちこちの教会や美術館に足を運んではオーディオガイドを聞いたりしているうちに、少しずつキリスト教文化に親しみを覚えるようになっていきました。時には荘厳で巨大な教会の礼拝に出くわすこともあり、2000年以上も受け継がれてきた神聖な祈りの姿を目の当たりにして、漠然と神様の存在を肌で感じていました。バーゼルに住む日本人ご夫婦のご自宅に集まって聖書を読みご飯をいただく会に参加するようになり、ある日みんなの真似をして一人自宅でお祈りをしてみました。神様に語りかけようと心を鎮めると、言葉では言い表せないようなエネルギーを全身で感じて、直感的に「ああ神様はいるんだ」と確信を持ち、涙が止まらなくなりました。始めは難解に感じていた聖書は今ではすっかり愛読書へと変わり、毎朝希望をもらっています。神様を味方につけた人生は、どんな困難が訪れても決して揺るがない希望と安心感があり、他の何からも得られない幸福に満ちています。私は歌うことで、少しでもこの幸せをお伝えできたらと願っています。